

川崎市 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」(SDC) 【令和3年度事業費：1,329千円】

（1）検討経過

平成30年度：▼「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定に向けた市民との意見交換
（川崎市市民検討会議（9月）、川崎市つながるまちづくり大会議（3月））

令和元年度：▼「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の周知・SDCモデル創出に向けた意見交換
（地域人材ヒアリング（12回））

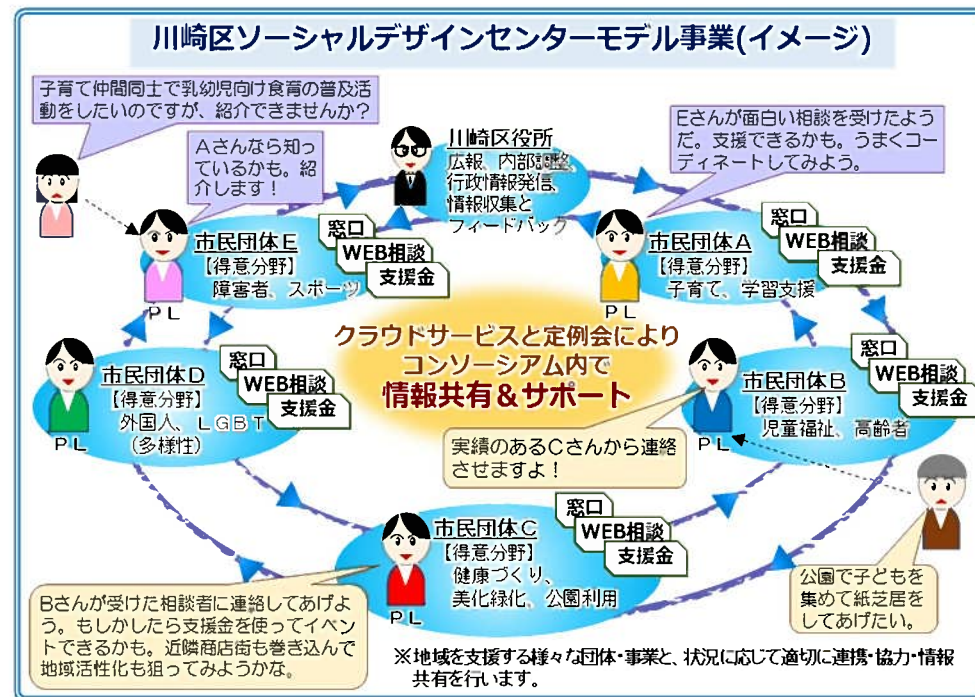
令和2年度：▼区役所内検討体制の構築（コミュニティ施策検討推進会議・ワーキングの設置）
▼提案事業の見直しによる地域団体事業の自主運営促進
（委託料から負担金での支援へ変更し、収益化促進と行政との役割分担の明確化）
▼地域活動団体との座談会の開始
（提案事業者とSDCモデル創出に向けた実証事業者による座談会での意見交換）
▼提案事業を活用した活動団体の育成とSDCモデル実証プロジェクトへの転換
▼SDCモデル創出に向けた実証プロジェクトの開始

令和3年度：▼SDCモデル事業の公募の実施

令和4年度：▼SDCモデル事業の開始

（2）取組の方向性

SDCモデル事業では、区域が広い等の区の特徴から、公募で選定された複数の地域活動団体と区役所とのネットワーク（コンソーシアム方式）により、各団体の得意分野を活かした事業運営を行っている。



（3）現状・今後の展開

現在は、SDCモデル事業を4つの地域活動団体（うち1団体は10月から参加）と区役所で運営しており、地域活動を始めてみたい！参加してみたい！などの「まちを良くするための相談」への対応や、新たな地域活動への参加・交流のきっかけをつくることで、地域課題の解決や新たな価値を生み出す仕組みづくりを行っている。

今後は、モデル事業を通じた機能や効果の実証・検証を実施し、検証結果を踏まえた本格実施を目指す。

2 地域デザイン会議

- ◆令和3年度テーマ：食糧支援を通じたつながりづくり（令和4年度も同テーマで2回目を開催予定）
- ◆令和4年度テーマ：外国人市民の地域防災活動への参加を通じたつながりづくり（ほか、区の特性や社会の状況をふまえた課題設定により、関係団体や区民、行政の意見交換を行う。）

3 まちづくり推進組織

平成10年に中学校区ごとに「川崎市まちづくりクラブ」を設置。設置から20年以上が経過し、存続するまちづくりクラブは4つとなった。各まちづくりクラブについて、一部の地域・団体への固定的支援となっている課題を踏まえ、令和4年度以降、従前と同様の支援をしないことを決定した。存続する4つのクラブの現状は次の通りである。大師クラブは、大師サマーフェスタ実行委員会の中核団体として存続。大師サマーフェスタについては、当面は区の事業として継続する見込み。小田及び川崎西部の両クラブは、今年度よりいきいきかわさき区提案事業を活用して継続しているが、次年度以降は不透明。渡田クラブは、今年度より独自で必要な経費について検討することになったが、一部の活動を社協の活動として継続し、発展的解消となった。

4 区民活動支援コーナー等

区内に3カ所（教育文化会館、田島・大師支所）。利用者会議を立ち上げているものの、団体会計の管理や予約受付も含め実際の運営は区役所の職員が担っている。R3の使用率（利用時間実績/利用可能時間）は、教文18.6%、大師7.6%、田島5.8%である。利用者が固定化されているため、交流促進やすそ野拡大の取組が重要である。現在実施している研修会の取組の継続に加えて、SDCとの連携についても今後検討していく。

5 市民提案型事業等

提案事業の枠組を外れた後に取組を継続するために必要な収益化の動機付けを図ることをねらいとして、令和2年度から協働の形態を行政関与度の大きい「委託型」から行政関与度が低い「負担金型」に見直しを行った。提案型という形をとることで、行政が把握していない幅広い地域団体・地域人材の発掘・育成や、自由な発想の事業展開ができる一方で、行政側が力を入れて取り組みたい課題を事業に反映させることが難しい側面もあることから、今後は募集時に一部テーマを設けることも検討している。

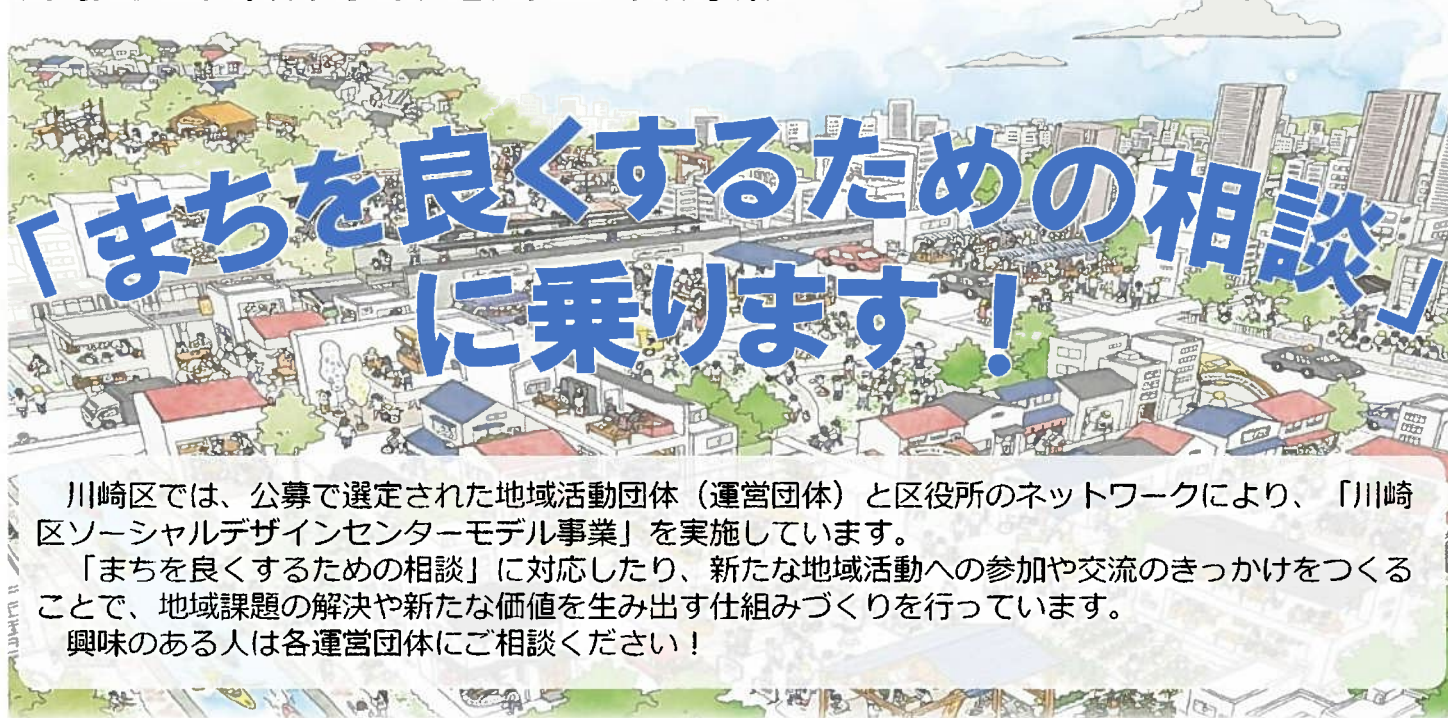
◆令和3年度実績：6事業（決算額計2,800千円）

- ・「願い事がつなぐ、わんぱくコミュニティづくりプロジェクト」
小学生の願い事を地域の協力を得て実現する（願いと願いで結ぶ）ことで、地域コミュニティを紡いでいく
- ・「かわさきディスカバーウォーク」
宝物ウォーキングマップを活用したウォーキングイベントを実施し、健康増進や多世代交流を目指す など

6 その他

- ・地域の縁側活動推進事業：誰もが気軽に立ち寄れて、お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、体を動かしたり、情報交換したりできる居場所「地域の縁側」の活動を支援。
- ・地域づくり推進事業：区内各地区の団体が他地区の団体の活動取材し、情報発信する取組を行う。リレー形式で実施することにより地区と地区の横のつながりを形成する。
- ・まちのひろばマップ：区民がいつでも行ける「まちのひろば」について、区内関係部署で情報を持ち寄り、場所や概要についてHPで周知。
- ・川崎市コミュニティ施策検討推進会議：コミュニティに関連した取組について、区役所関係部署の横断的な連携により検討・推進する体制として設置。情報共有や進捗確認の場として活用。

川崎区ソーシャルデザインセンターモデル事業



【相談内容】

地域活動を始めてみたい！参加してみたい！などの「まちを良くするための相談」

【相談できる方】

区内にお住まいの方、区内で活動したい個人・団体の方であればどなたでも！



【相談方法】

各運営団体の窓口開設日に直接行くか、お電話にてご相談ください。
FAX、メールなどによるご相談は、窓口開設日に限らず受け付けています。
※ 団体によって相談窓口の日時が異なりますのでご注意ください。詳しくは各運営団体の情報をご覧ください。

【運営団体】

NPO法人 姿勢教育の孝心会
一般社団法人 グローバル文化協働支援センター
社会福祉法人 青丘社

【運営団体の情報】

NPO法人 姿勢教育の孝心会

相談受付者：溝井 直孝（みぞい なおたか）

場所：コミュニティハウスさくら
（東田町3-25東田公園内）

窓口受付：毎週火曜10時～21時、
土曜10時～12時

電話：044-271-7657

FAX：044-271-7657

メール：koushinkai-sakura@kind.ocn.ne.jp



▲メール

子どもが考え企画する地域活動をはじめ、誰でも気軽につながれるような場づくりに取り組んでいます！



溝井さん

社会福祉法人 青丘社

相談受付者：原 千代子（はら ちよこ）

場所：みんなの家学習スペース
（桜本1-8-22）

窓口受付：毎週火曜10時～16時、
水曜13時～17時

電話：044-288-2997

FAX：044-589-7700

メール：hara@seikyu-sha.com



▲メール

多文化交流などを中心に、誰もが気軽に立ち寄れる場、つながり、支え合う場づくりなどに取り組んでいます！



原さん

一般社団法人 グローバル文化協働支援センター

相談受付者：黒江 三栄子（くろえ みえこ）

場所：JDSビル交流会場・事務所
（本町1-3-3）

窓口受付：毎週月曜、水曜10時～21時

電話：044-222-3582

FAX：044-233-0617

メール：gccsc@gmail.com



▲メール

多世代・多文化理解のため、アートを通じた交流や支援活動を行い、地域で気軽に交流できる居場所づくり、コミュニティ同士をつなぐ活動に取り組んでいます！



黒江さん



ソーシャルデザインセンターとは？

人や団体・企業、さまざまな地域の資源・活動をつなぐコーディネート機能やプロデュース機能を有し、まちにちょっと新しい何かを生み出す空間です。

【問い合わせ先】
川崎区役所まちづくり推進部企画課
電話：044-201-3267
FAX：044-201-3209
メール：61kikaku@city.kawasaki.jp

幸区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」(SDC)

【令和3年度事業費：6,000千円】

(1) 検討経過

令和元年度からSDC創出に向けた個別協議に着手し、SDC開設意向のある事業者との協議調整や、地域へのヒアリング、また、先進事例自治体への視察等を行い、令和2年6月に、新川崎タウンカフェを運営する株式会社イータウンと協定を締結。令和3年1月に、新川崎タウンカフェ内の一角に、幸区SDC「まちのおと」をオープンした。

(2) 取組の方向性

幸区は元々町内会・自治会の活動が中心的存在となっている一方で、高齢化や担い手不足といった地域課題があり、課題解決（新たな担い手発掘、つながりづくり、地域活動支援など）への対応が図れる運営となるよう、地域（団体）の活動や課題を把握するための個別ヒアリング調査や、ネットワーク検討会議、地域交流会の開催など様々な取組を行っている。取組を進める際は、区とSDCで頻繁に意見交換を行い、行政として適宜助言を行っている。

今後も引き続き取組を進めるとともに、区の地域課題を区とSDCで常に情報を共有し把握した上で、必要に応じて事業を見直すなど、区民のニーズを取り入れながら効果的な運営を目指していく。

(3) 現状・今後の展開

開設以降の幸区SDCの取組状況 ※別添パンフレット参照

開設日：令和3年1月12日

開設時間：火曜～金曜 10～17時、土曜 10時～12時

開設場所：新川崎タウンカフェ（幸区鹿島田1-1-5 パークタワー新川崎102）

運営組織：株式会社イータウン

SDCの持続可能な運営に向けた自主財源の確保に向けて、引き続き情報発信を行うとともに、SDCの活動範囲を、日吉地区以外の2地区（御幸、南河原）にも拡充するため、関係部署同士で連携し、各地域の町内会とSDCに繋がりを持たせていく。最終的には、SDCが自立して事業実施を行えるよう、自主財源の確保を目標に事業を進めていく。

2 地域デザイン会議

◆令和3年度テーマ：（川崎駅西口を中心とした）地域資源を活用したまちの賑わい

◆令和4年度テーマ： 令和3年度と同じ

大型の文化施設や商業施設を有し、新たな開発も進む川崎駅西口周辺の事業者や地元の町内会・商店会等のつながりづくりを令和3年度に行い、4年度でまちの賑わいに向けた具体的取組の意見交換を実施。

3 まちづくり推進組織

幸区まちづくり推進委員会として、地域課題について検討する部会と、市民活動の活性化を考えていく部会（様々な活動拠点をめぐる活動などを実施）の二本立てで活動していたが、区役所庁舎の建替のタイミングで、新庁舎の市民活動コーナーの立ち上げや運営に関わる組織に移行したことに伴い、平成25年度末に発展的解消となった。

4 区民活動支援コーナー等

幸区内で営利を目的としない自主的な社会貢献活動を行っている区民や団体を支援するため、打合せ、印刷作業、交流等の場や情報提供の機能を提供しており、現在、幸区役所と日吉合同庁舎で併せて51団体が登録している。今後も利用団体の自立した運営に向け行政側が様々な団体の活動内容等を把握するとともに、SDCと連携しながら、地域コミュニティの活性化に向けて、見直し、改善を図りながら事業を進めていく。

5 市民提案型事業等

○幸区提案型協働推進事業

当区は平成21年度から事業を実施しており、実施当時から変わらず委託金として経費の支出を行っている。

これまで、「高齢者等の健康づくり・見守り・支えあい」「子育て支援」「地域コミュニティの活性化」「地域の魅力発信・向上」「安全・安心なまちづくりの推進」「エコ・環境の推進」「障害者が社会参加できる環境の創出」などをテーマとして事業を実施し、区の課題解決に寄与した。

令和3年度については、4件の事業を実施し、計1,601,859円執行した。

・「障害のある人の活動等を通じた幸区版パラムーブメントの取組」

・「幸区オリジナル盆踊りプロジェクト」 他

○まちのおと協働事業（幸区SDC「まちのおと」）

地域の人材発掘や育成に寄与する事業を「まちのおと」と協働で実施【令和3年度は3件へ助成金】

6 その他

地域課題対応事業◆市民館コミュニティ推進事業

令和3年度から、多様な主体が出会いつなぐとともに、市民が自ら地域の課題解決や活動・交流に参加していけるよう支援することを目的とし、幸市民館喫茶室跡地を「IDOBATA SPACE」と命名し、民、官、個人、団体問わず、みんなのアイデアで事業を実施することで、つながりと対話が生まれ、コミュニケーションが広がる「みんなの居場所」づくりをモデル事業として行う。

<成果>

市民提案者が市民館コミュニティ推進事業実行委員会や社会教育振興係職員と共に、良好なコミュニケーションが生まれる事業を複数回実施。回を重ねるごとに「不定期で楽しいことをやっている場所」という認識が、市民館ユーザーや通り掛かりの市民に生まれている。



2021 年度の予定

各事業の詳細はホームページや SNS で紹介いたします。

※予告なく変更となる場合があります。

地域交流会

開催 第2回：9/27(月)11:30～13:00
*第3回以降は順次ホームページでお知らせします

ランチ会？それとも呑み会？！和やかに開催される交流会。まちづくりに興味のある方もそうでない方も、誰でも気軽に集まれる交流会を開催します。

- 場所：新川崎タウンカフェ（オンライン開催も検討）
- 参加費：300 円～1000 円程度（飲食代など実費）
- 対象：関心のある方など誰でも

まちあるき「魅力再発見」

開催 第1回：9/27(月)10:00～11:30
*第2回はホームページでお知らせします

いつも何気なく通り過ぎる街並み。意外に知られていない歴史やエピソードが眠っているかもしれません。新たな「場」の発見や「人」との出会いも楽しめます。

- 参加費：300 円程度（資料代・飲食代など実費）
- 対象：関心のある方など誰でも

まちのおと協働事業

開催 10月～3月

公募により下記3団体との協働事業が決定しました。10～3月にかけて開催予定です。

- NPO 法人はたらくらす
「俺の話を聞け～」さいわい街づくりミーティング～なんでも叶う！としたら地域で何がしたい？～
- NPO 法人幸まちづくり研究会
「新川崎ふれあい公園」森づくり体験イベント
- NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ メロディー
ボランティア養成講座



まちづくり応援フォーラム

時期 11/23(火・祝)10:00～12:00

地域のまちづくりや活動がより良くなるためには？地域ニーズやまちの資源を知り、相互連携・応援する方法を一緒に考えます。

- 対象：地域活動やまちづくりに関心ある方
- 会場：新川崎タウンカフェ & オンライン Zoom 併用



まちのおと意見交換会

時期 2022 年 2 月開催予定

ソーシャルデザインセンターの運営について、市民参画で事業についての意見交換を行います。

- 対象：まちのおと事業に関心のある個人・団体

OPEN CAFE DAY<貸切>

開催 毎月第3月曜日

新川崎タウンカフェを、貸し切りで思う存分活用してみよう！

ミーティングや勉強会、サロン開催、チャレンジショップなど地域活動を展開してみませんか？

- 場所：新川崎タウンカフェ
- 利用日時：毎月第3月曜日/9時～18時
- 対象：地域活動や市民活動、コミュニティビジネスなどを行う団体や個人
- 費用：2,200 円/3 時間
- ※事前予約と登録が必要です。



まちのおと（さいわいソーシャルデザインセンター）

開設：2021年1月12日

場所：新川崎タウンカフェ内

運営：株式会社イータウン

開設時間：火～金 10:00-17:00 土 10:00-12:00

※新川崎タウンカフェの営業時間とは異なります

お問合せ

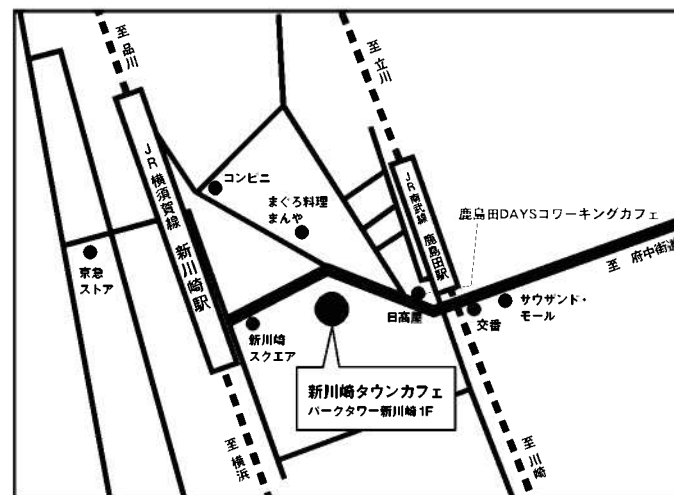
TEL/FAX：044-555-0233

メール：info@machinote.net

web サイト：https://machinote.net/

〒212-0058

川崎市幸区鹿島田 1-1-5 パークタワー新川崎 102



さいわいソーシャルデザインセンター



まちのおと
machinote

Saiwai Social Design Center

<https://machinote.net/>

川崎市では「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、各区において、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たなしくみとして、地域でのさまざまな新しい活動や価値を生み出し、社会変革を促す基盤であるソーシャルデザインセンター（SDC）の創出に向けた取組を行っています。SDC は、人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能や人材育成、まちのひろばへの支援等の機能を持つものです。

まちのおと

S-SDC Saiwai social design center

さいわいソーシャルデザインセンター

「まちのおと」は、さいわいソーシャルデザインセンターの愛称です。

こんなことをしています

「まちのおと」では、主に5つの事業を通して、地域交流の促進やまちづくり推進を行う市民や地域活動団体の方々のサポートを行います。

知る

地域の活動情報をwebやSNSで発信します。
情報ラックコーナーにチラシ、パンフレット等を設置します。
まちを知り感じるボランティアのレポート活動を行います。

- まちのおとポータルサイト
- まちの情報誌「まちのおと」

話し合う

地域のニーズや課題をリサーチ。「困った」や「だったらいいのに」をヒアリングします。
専門家や行政を交えて今後の地域活動の方策等について意見交換を行います。

- まちのおと意見交換会

学ぶ

まち歩きなどを通して、まちを知り学ぶ機会を設けます。
地域のつながりづくりや、個人・地域活動団体の「～したい」と「～ほしい」を集めてつなぎます。

- まちづくり応援フォーラム
- 個別相談・アドバイス
- まちあるき「魅力再発見」

相談する

「やりたい」「どうするの」といった地域活動の始め方や、運営継続に必要なノウハウを提供するため、個別相談などで活動をサポートいたします。

つながる

市民参加型での地域交流会など、どなたでも集まれる気楽な場から、まちづくりや地域活動に携わっている方の検討会議まで、さまざまなネットワークづくりを行います。

- 地域交流会
- チームまちのおと

どこにあるの？



まちのおとは、新川崎タウンカフェの一角にあります。
新川崎タウンカフェは、「cafe から始まるおもしろまちづくり」をキャッチフレーズに2016年に誕生したコミュニティカフェです。
カフェの運営はもちろん、地域の多様な主体が参画して、ハンドメイドの展示販売やワークショップ、カフェスペースでのスペース貸し機能、情報誌の発行やちらしコーナーの設置、ボランティア実行委員によるハッピーサロン運営など、地域の交流拠点として様々な活動を展開しています。運営：株式会社イータウン

利用しませんか？

Information

情報あります・発信できます

まちのおとでは、情報ラックコーナーを設置しています。子育てや地域活動など、さまざまな種類の情報チラシが集まるスペースです。
各種講座、親子イベント、健康に関する情報などたくさん集まっています。ぜひ一度ご覧ください。



地域で活動をされている団体の情報発信ができます。町内会やPTA、ボランティア団体など、非営利活動の情報発信をお待ちしています。

<https://machinote.net/>



Space

スペース利用できます

幸区で活動される団体または個人の方にご利用いただけるスペースです。ミーティングなどにご利用可能です。ゆったりしたカフェの雰囲気を感じながらご利用いただけます。



- 場 所：新川崎タウンカフェ内 SDC スペース
- 対 象：幸区在住・在勤・在学の非営利活動団体や事業者の方
- 利用料：無料（事前団体登録制）
※タウンカフェでワンドリンクご注文ください
- 利用回数：1日1回3時間まで。（月2回までご利用可）
- 定 員：4名まで
- 利用方法：要事前登録予約。
*第3月曜日は貸切利用が可能です（詳細は裏面参照）

Advice

活動相談・アドバイス 毎週火曜日・金曜日 10:00-17:00

地域活動の始め方や、運営継続に必要なノウハウを提供し、実現に向けたプロセスと一緒に考えます。プランを描き、人をつなぎ、実践できるよう、まちづくりコーディネーター（まちづくりをしている仲間）がサポートします。新たな一歩を踏み出してみませんか。

- 場 所：新川崎タウンカフェ（*オンラインでも可）
- 費 用：1回1時間・年間2回まで無料（3回を超える場合は実費負担となります）
- 対 象：地域活動やまちづくり、コミュニティビジネスなどを始めたい方、すでに実施して課題等をお持ちの方（原則として幸区在住・在勤・在学）
- 利用方法：要事前予約（1週間前まで）
相談対応時間：火曜・金曜 10:00～17:00

相談アドバイザー / コーディネーター



斉藤 保
株式会社イータウン 代表
コミュニティビジネスアドバイザー



岩川 舞
まちのおと
コーディネーター

中原区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」(SDC)

【令和3年度事業費：24千円】

(1) 検討経過

ア 「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン」(仕様案)作成

令和3年5月に中原区のソーシャルデザインセンター創出に向けた案の下描きとして「知る」「集う」「つながる」を主な機能として示す「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(以下「デッサン」)」を作成。

イ 区民説明会(7月16日 39名参加)

「デッサン」に基づき説明会を開催

ウ 意見交換会(8月20日～12月17日 計5回 延べ参加者数94人)

区民の方同士の意見交換により地域活動を生み出す取組を実践。

エ 検討会(1月21日～5月26日 計7回 延べ参加者数83人)

はじめに、意見交換会の成果報告を行い、以降、SDC機能、運営体制を検討。

オ 庁内検討プロジェクト(9月27日、11月29日)開催

SDC創出に向けた課題を関係部署職員にて共有・検討

カ こすぎの大学主催：中原区ソーシャルデザインセンター検討ワークショップ(10月23日、11月6日)
区民意見交換会を補完し、中原区らしいSDCを創出することを目的として武蔵小杉で活動している「こすぎの大学」が自主的に実施。

キ SDC準備会(R4年6月～9月)

R4年10月からのスタートを目標に月1回程度開催。延べ75人参加

(2) 取組の方向性

- ・検討会の結果、中原区のソーシャルデザインセンターの機能とした「知る」、「集う」、「つながる」、「その他」を実践する。
- ・今ある資源でできることからスモールスタートする。
区役所もメンバーとして参加しながら、市からの補助金等に頼らず運営する。

(3) 現状・今後の展開

R4年10月からスタート予定

運営方針等は 別紙のとおり

2 地域デザイン会議

◆令和3年度テーマ：市民参加型のまちづくりの実現に向けて

～ITツールの活用も含めた住民間のコミュニケーションの活性化～

◆令和4年度テーマ：市民参加型のまちづくりの実現に向けて

～「地域をよくする意見を誰もが気軽に伝えられる仕組み」を考える～

住民参加型のまちづくりに向けて、地域における市民主体の取組への参加を促進するため、令和3年度の実施結果を踏まえ、地元IT事業者の協力のもと、引き続き区民との意見交換を行う。

3 まちづくり推進組織

- ・中原区のまちづくり推進組織(中原区まちづくり推進委員会、なかはら20年構想委員会、自転車と共生するまちづくり委員会)については、一定の役割を果たしたことから「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」も踏まえ、各団体と協議の上、R3年度で活動を終了した。(自転車と共生するまちづくり委員会はR2年度終了)
- ・中原区まちづくり推進委員会が行っていた区民活動支援コーナーの運営、市民活動の集い(なかはらっぱ祭り)については、利用団体により組織された「中原区民交流センター利用者の会」により実施を行う。
- ・なかはら20年構想委員会で実施していた事業のうち「花の配布会」については、区役所で理念を引き継ぎ、継続して実施を行う。

4 区民活動支援コーナー等

区役所内に「なかはらっぱ」の愛称で、会議室や印刷室を備え、令和4年度からは利用団体による利用者の会により運営が行われている。

(R3利用率：会議室33%、印刷室25%)

中原区SDCは特定の場を設定しない形式でスタートするが、SDCとの役割分担などを検討していく。

5 市民提案型事業等

目的が助成金と捉えられていることや、提案書類作成等の事務に関する手間が多く、提案できる団体が限られてしまっていること、「まちのひろば」の支援が必要などの課題に対応するため、令和3年度事業より、委託から負担金へ変更した。合わせて上限10万円で新規事業を対象としたスタートコースと上限50万円で1年以上実績のある団体が提案できるステップアップコースの2コースを設定し実施している。

(R3年度実績)スタートコース(8団体、当初負担金総額2,433千円)

ステップアップコース(5団体、当初負担金総額1,778千円)

- ・「みどりなおさんぽ～なかはらこども自然観察会」
- ・「コスギアート ラ・ファブリカ」
- ・「介護予防・日常生活支援事業と介護予防コーディネート支援」
- ・「妊娠期～新生児子育て世代向けの情報発信」 など

6 その他

〇ご近所さんぽ

地域包括ケアシステム推進の一環で、地域のつながりづくりに資する取組として、コロナ禍でも気軽に参加でき、集まることのできる取組として「ご近所さんぽ」の普及に取り組んでいる。

〇しもめまべ共創プロジェクト

しもめまべ共創プロジェクトは、企業(NEC)、地域で活動する方、行政(川崎市)が連携してNEC玉川事業場公開空地の活用に取り組みながら新たな魅力を生み出し、下沼部エリアを中心に地域を盛り上げていくために結成されたプロジェクト。組織の枠を超え、企画内容に応じ区役所関係部署が関わり、NECプロボノ倶楽部や地域のボランティア、団体などと連携し、イベント、健康体操PV撮影、子ども食堂などの取組を実施した。

中原区SDCとは？

Social Design Center

中原区ゆかりの団体・個人・行政の集まりで、
将来的に団体化を目指しています。

何のために活動するの？

参加メンバの **①生きがいの発見** **②新しい価値の創出** **③抱えた課題のクリア** に貢献します。

何ができるの？

**①「YORIAI」で
仲間づくりができる！**

**②やりたいことの提案が
できる！**

③情報発信ができる！

中原区SDCメンバによる定例の交流・共有・提案の場です。

【開催】偶数月第三水曜日 18:30- 奇数月第二土曜日 10:00-

【内容】第一部：YORIAI企画_30分-1時間

第二部：各チーム報告_15分

第三部：ネットワーキング_1時間

※ トータル約2時間 途中退出・中途参加OK

【場所】中原区役所会議室

<参加について>

【資格】中原区に何らかのゆかりがあれば広くOK
政治・宗教・（過度な）営利活動はNG

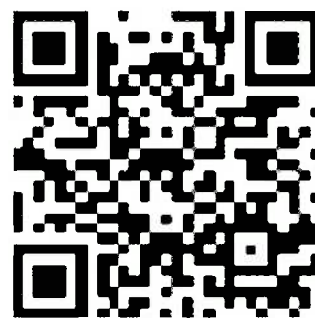
【方法】①右のQRコードからSlackに登録

②YORIAI（月一回開催）への参加

【発展】①分科会（テーマ別チーム）への参加

②YORIAI/分科会への企画提案・実施

③中原区SDCの運営など



<ルール>

- ①来るもの歓迎 総員で、去るもの追わず また来てね
- ②幅広い年代がまんべんなく参加できる集まりを目指す
- ③手弁当で、各々がやれることをやれる範囲で精一杯やる
- ④奪い合えば足らぬ、分け合えば余る みんなで分担しよう
- ⑤議論では意見の否定を避け、明るく元気に前向きに

中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた取組状況

1 取組概要

(1) 目的・概要

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」において、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな取組として創出することとされた「ソーシャルデザインセンター(以下「SDC」)」について、令和4年度の活動開始に向けて次の取組を行った。

(2) 検討経過

ア 「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン」(仕様案)作成
令和3年5月に中原区のソーシャルデザインセンター創出に向けた案の下描きとして「知る」「集う」「つながる」を主な機能として示す「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(以下「デッサン」)」を作成。

イ 区民説明会(7月16日 39名参加)

「デッサン」に基づき説明会を開催

- ・当日のアンケート結果(抜粋)

きっかけづくりや連携強化、**取組の実践**への関心が**高い**。一方で、人材育成や助言など地域の活動に**間接的に関わる**機能については関心が**低い**結果となった。
⇒区民の方とSDCの取組を検討するにあたり、地域活動の実践等区民の方が**興味のあることと関連付けて**検討できる仕組みづくりが必要と考えた。

⇒SDC創出に向けた区民の方との検討の方向性

まず、区役所が調整役となり地域活動を生み出すSDCの機能を体験する機会(意見交換会)を設け、それを踏まえSDCの機能、運営体制を検討(検討会)。

ウ 意見交換会(8月20日～12月17日 計5回 延べ参加者数94人)

区民の方同士の意見交換により地域活動を生み出す取組を実践。

⇒「超」ローカルかわら版、「なかはら盛り上げ隊」等の取組を検討・創出

エ 検討会(1月21日～5月26日 計7回 延べ参加者数83人)

はじめに、意見交換会の成果報告を行い、以降、**SDC機能、運営体制を検討。**

⇒「デッサン」で示した機能の修正案を取りまとめ、これから実践する取組を決定。

オ 庁内検討プロジェクト(9月27日、11月29日)開催

SDC創出に向けた課題を関係部署職員にて共有・検討

→グランドルールの必要性・決め方・定める事項、コーディネートの必要性等

カ こすぎの大学主催: 中原区ソーシャルデザインセンター検討ワークショップ(10月23日、11月6日)

区民意見交換会を補完し、中原区らしいSDCを創出することを目的として武蔵小杉で活動している「こすぎの大学」が自主的に実施。

幸区SDC「まちのおと」コーディネーター岩川氏、地域で人のつながりを生むプロジェクト「100人カイギ」発起人高嶋氏から事例紹介を受け、中原区SDCで各自がやりたいことのイメージを共有し、参加者がSDCでやりたい取組を時間割にするワークショップを実施。

(3) SDC準備会(6月～9月)

R4年10月からのスタートを目標に月1回程度開催。

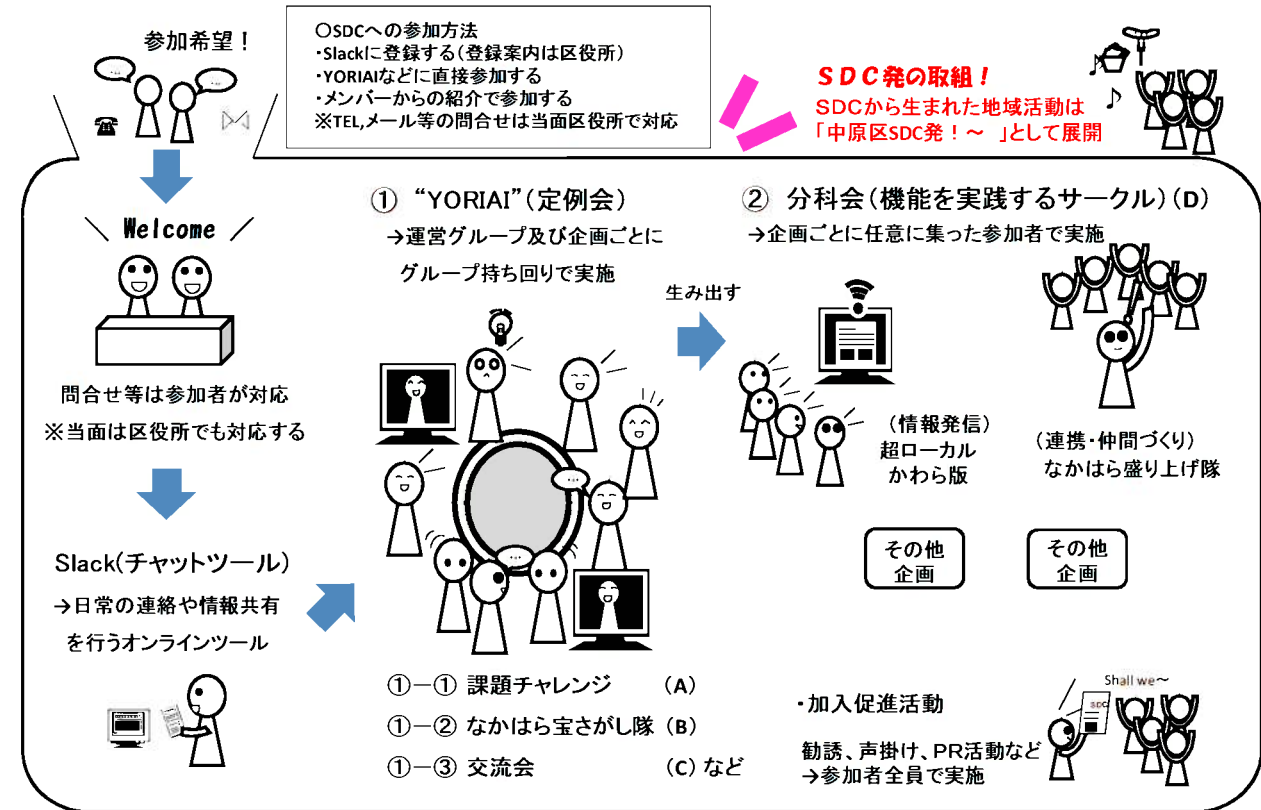
6月15日、7月21日、8月17日で延べ75人参加(会場参加、オンラインの合計)

2 検討結果

(1) 取組の方向性

- ・「知る」、「集う」、「つながる」、「その他」の機能を実践する。
- ・今ある資源でできることからスモールスタートする。
→区役所もメンバーとして参加しながら、市からの補助金等に頼らず運営する。

(2) 中原区SDCイメージ



(3) 活動開始に向けた今後の課題

運営主体、参加ルール、相談窓口、財源確保 など

中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた取組状況

YORIAIイメージ別紙

○現在検討が進む活動内容

YORIAI(定例会)

毎月1.2回程度集まり、中原区民がよりよく生きるための取組を行う

「課題チャレンジ」「宝探し」「交流会」の各グループが持ち回りで企画運営・状況報告等を行う

交流タイムでは、自己紹介や悩み事、やってみたいことなどを雑談するつながりの場として提供

「知る・集う・つながる」を実現する機能としての中原SDCに興味がある方は、広く参加可能

各グループのコンテンツや、「交流タイム」に参加するだけでもOK

YORIAI(定例会)のイメージ



検討状況報告



交流タイム

(A) 課題チャレンジグループ(つながる・その他)

市民活動を行っていくうえでの課題に取り組む

セミナー(講座)の開催

自分の“思い”や“好き”を見つめなおし、これまでの経験・ノウハウで地域を元気にする方法を考える講座。

“YORUBE(寄る辺/夜辺)の会”開催
(井田山で夜の昆虫観察会&交流会)

※「井田山を盛り上げたい」という地域課題に対する貢献プロジェクト



検討状況



YORUBE(寄る辺/夜辺)の会

(B) なかはら宝さがし隊グループ(知る)

宝の地図のカたち例

地域の宝をさがし、宝の地図で、区民のやってみたいを応援

宝をさがす

地域にある強みや魅力、暮らしに役立つモノ・コト・ヒトを探す

宝の地図をつくる

地域にある宝を、宝の地図でみんなが見えるようにする

やってみたいを応援

私らしく何か地域でやってみたい
そんな思い実現の一助となるように



MaaSカオスマップ 2021年度版(抜粋)

業界地図のようにカテゴリと関係性で可視化

(D) サークル活動 (現在Facebook上で展開)

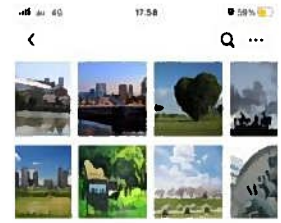
超ローカルかわら版
(知る)



"超"ローカルかわら版_中原SDC
公開グループ 96 メンバー

中原区にちなんだイベントや出来事を書込み、ローカルメディアで取り上げてもらう

なかはら盛り上げ隊
(つながる)



なかはら盛り上げ隊(中原区SDC)
プライベートグループ 25 メンバー

一緒に中原区を盛り上げたい人たち同士の、新しい出会いや繋がりを作る場

Slack※で情報共有・ 日常の意見交換



※Slack: ビジネス用のチャットツール

中原区SDCでの情報共有のためのチャットツールとして利用

(C) 交流会グループ(集う・つながる)

誰かと話し、仲間を作ることで、何かを始めるきっかけとする

全ての人に開かれた、対話のための場作り

誰もがアクセスでき、対等かつ平等でオープンな意見交換を行う。

「本日のテーマ」について、それぞれの経験や価値観、考えを語り合う。

(中原区の5地区で実施予定)

第1回 丸子地区 第2回 住吉地区 第3回 玉川地区
第4回 大戸地区 第5回 小杉地区



第1回中原区SDC交流会

高津区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」（SDC） 【令和３年度事業費：968 千円】

（１）検討経過

- ・2019 年度 まちづくりカフェたかつ開催（市民創発の土壌づくり）
facebook ページ「Co-TAKATSU」開設
- ・2020 年度 まちづくりカフェたかつ開催、デザインラボ（市民創発による課題解決の実践）実施
- ・2021 年度 まちづくりカフェたかつ開催、デザインラボ実施、
デザインラボの枠組みによる「脱炭素アクションみぞのくちプロジェクト創出部会」始動
- ・2022 年度 まちづくりカフェたかつ開催、
前年度まちづくりカフェたかつ参加者によるプロジェクト実施

（２）取組の方向性

- ・事業者が多い、地域活動が盛んである、市施策として脱炭素モデル地区である、交通結節点である等の高津区ならではの特色を活かして、事業者や団体などの持つ力を課題解決の実践に結び付けるため、多様な主体の連携を促進することを大切に進めている。また、連携を通じた実践的な取組や、そこから生み出される成果（具体のプロジェクトや活動）を重視している。
- ・地域で主体的に課題を解決していく機能や仕組みを地域全体で充実させていくことを優先するとともに、区民のライフスタイルの変化や社会情勢の変化に柔軟に対応できる持続可能な仕組みであることも重視しているため、場や固定的な組織体制にはこだわっていない。

（３）現状・今後の展開

※別紙のとおり

2 地域デザイン会議

- ◆令和３年度テーマ：区民の環境配慮型ライフスタイルへの行動変容の促進（脱炭素アクション）
- ◆令和４年度テーマ： 上に同じ
若者世代を中心とした柔軟な視点による意見交換を通じて、脱炭素アクションに関する取組のアイデアを創出し、令和４年度は実際のブース出展を目指して意見交換を行い、会議後も継続的に活動中。

3 まちづくり推進組織

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」等を踏まえ、行政が事務局を担い、予算措置をする従来のやり方について、第 12 期（令和４・５年度）をもって見直す方向で、高津区まちづくり協議会との協議を進めている。なお、市民活動見本市や市民活動支援ルームといった「川崎市市民活動支援指針」に基づく中間支援的活動については、SDC との連携等とともに、一定の予算措置の継続も含め検討している。

4 区民活動支援コーナー等 （高津区市民活動支援ルーム）

高津区内を拠点とする市民活動団体へ、会議・打合せ・情報交換・組織間の交流場所として、高津区役所、橘出張所、高津市民館、プラザ橘の４か所にある会議スペースや印刷機の貸出を行っている。令和３年度の登録団体は 42 団体。

＜運営方法＞ 高津区まちづくり協議会を構成する一つの委員会であり、要綱に基づき設置されている高津区市民活動支援ルーム運営委員会が運営。利用登録の審査や予約電話当番、利用料金の収受管理は運営委員会が担い、消耗品の補充、登録団体との連絡調整等は事務局が担っている。

＜今後の方向性＞ 課題として、登録団体が年々減少し、稼働率も低いことが挙げられる。まちづくり協議会の見直しに伴う今後の運営組織のあり方や、SDC の検討の中での位置づけなど協議を行っていく。

5 市民提案型事業等

■今までの経緯：R2 の募集にあたり、提案団体が少ない点や、経験の浅い団体が提案しにくい点を鑑みて、条件等の見直しを行った。また、R3 の募集においては、提案事業終了後の事業継続に必要なマネタイズの動機付けを図ることをねらいとして負担金の導入を図った。事業評価についても、効果的な事業実施及び次年度以降の事業継続を目的として実施年度中に相談・交流会を設けるなど見直しを行った。

■R3 年度の事業実績：４件・合計金額 ¥ 2,069,620

・「たかつ学生歓迎セミナー」「高津せせらぎプレーパークプロジェクト」ほか

6 その他

地域課題対応事業、市民自主学級、地域包括ケアシステム構築に向けた取組など、コミュニティ施策に関する取組を進めた。

○地区カルテの活用

地域について話すきっかけツールとして地域の集まりや地区別情報交換会など庁内の会議で地区カルテを配布。

○マンションにおけるつながりづくり支援事業

マンション居住者間及び居住者と地域とのつながりづくり支援として、好事例の発信・共有による活動促進、マンション居住者交流会を実施。住民が公園の愛護会を結成し近所の保育園児と一緒に花植えするなど、公園の美化と住民のつながりづくりにつながった。

○健康長寿のまちづくり推進事業

「高津公園体操」を地域に普及することで介護予防、見守り体制の構築を推進。「まちのひろば」としての機能も

○高津区多文化共生推進事業（高津市民館）

市民を構成員とする実行委員会と協働して、外国人の子どもと保護者の子育て講座、防災訓練、多文化地域めぐり、防犯講座、多文化ワークショップ、学習支援（多文化子ども塾）、多文化共生につながる職員向け研修などを実施。外国人市民と日本人市民のつながり・仲間づくりに寄与

○市民自主学級「つながる・まなぶ ハピママ三年生」

未就学児の子を持つ親子が孤立しないように、学びと出会いを通じたネットワークづくりを行う

○音楽のまち推進事業（橘分館）

演奏者等に地域人材の協力を得て、乳幼児から高齢者まで多世代の住民が音楽を通して交流する機会を提供

1 高津区の現状を踏まえたコミュニティ施策推進に向けた視点、キーワード

<現状> ○民間事業者によるリノベーション物件や多用途に使える物件の増加
(nokutica、ノクチャボ、One、eM-park、BOILなど)
○区民の約15.0%が「まちのひろば」創出に関心あり（※R2ニーズ調査）
○脱炭素や緑化など環境をテーマとした地域活動が活発化

<課題> ○区民、団体、事業者の間のつながりが不足
○まちづくりのコーディネート役・プロデュース役が不足

○多様な主体のつながりを重視し、
課題・資源・アイデア・行動・成果・
価値等を共有する“持ち寄り型”
コミュニティの実現
・具体的取組で**成果・実績を重視**
・町内会自治会、まちづくり協議会
など地域の組織・団体と協働

2 コミュニティ施策推進のコンセプト、SDCの方向性

【コンセプト】～10年後の高津区コミュニティが目指すべき姿～

地域課題解決に向けて「多様な主体がつながり」、「強みを持ち寄り」、「アイデアをみんなで実現する」まちづくり

フェーズ1 市民創発の土壌づくり
フェーズ2 市民創発による
課題解決の実践

多様な主体の連携による
共創プラットフォーム
の構築

3 高津区ソーシャルデザインセンター（SDC）モデルの機能分担と運用スキーム

高津区SDCモデル 企業・団体・地域のキーパーソンとのパートナーシップを推進、多様な主体の連携によるリビングラボ型**共創プラットフォーム**を構築

①相談窓口・コーディネート機能

**相談窓口
開設** 目的：地域課題を解決したい人、地域活動に関心
がある人、実践している人の相談窓口

窓口機能（R4試行実施予定）
【R4予算：1,756千円】

②広報・情報受発信機能

広報、活動場所や団体情報
の提供

地域デザイン会議

目的：地域課題の把握
・市民参加機会の拡充
・横断的な課題の抽出
・臨機応変に柔軟な場を設定

③人材発掘機能

人的つながり機会の提供

目的：担い手発掘、新たな参加と交流、
「コトおこし」のきっかけづくり
（→まちのひろば創出）

市民創発の土壌づくり まちづくりカフェたかつ

・気軽な雰囲気の中、参加者同士が高津区のまちづくりについて意見交換で
きる場。まちへの想いを共有して「仲間づくり」を楽しむなど、関心層を後押し。
・計10回、延べ100名以上の参加（大学生、デザイナー、漫画家、住職、
地主、元ダンサーなど多様な区民が参加。R3は2グループが活動PJを立ち
上げ）

④人材育成・交流促進機能

活動の「場」の提供

目的：活動の実践を通じた個人
やグループの育成、つなが
りづくり

場・資材の 提供

・市民活動支援
ルーム（会議室、
印刷機等資材）

市民団体間の交流促進

目的：団体間交流による団体
の知見共有、連携のきっかけ
づくり

相談・交流会の場づくり

・市民提案型協働事業実施団
体交流会
・高津区市民活動見本市
・市民活動支援ルーム登録団
体交流会

⑤マッチング・プロデュース機能

地域のキーパーソンとの連携

目的：キーパーソンとのつながり
による展開、プロジェクト化

市民創発による課題解決の実践

情報共有の仕組づくり
・企業や団体を中心に12団体
（川崎フロンターレ、富士通ゼネ
ラル、東急、エヌアセット等）

企業・団体間の連携

目的：企業同士、団体同士、相互
連携によるプロジェクト化

たかつデザインラボ

**脱炭素アクションみそのくち
プロジェクト創出部会**
・企業や団体を中心に30団体
・A～Dの4グループで活動

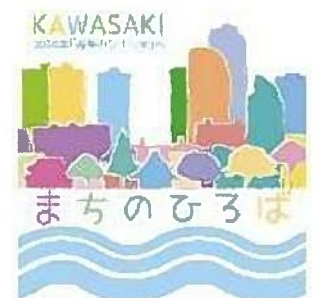
⑥地域課題の解決に向けた取組(プロジェクト)創出への支援機能

プロジェクトへの支援

目的：プロジェクトの実施に
かかる**資金支援**

行政主導の支援：市民提案型協働事業負担金、市補助金、
大山街道活性化推進事業「まちの企画室」等
民間型の支援：クラウドファンディング、企業協賛等

地域課題の解決に向けた
具体的な取組の実現
市民創発のさらなる推進



4 事業の段階的推進の方向性（スケジュール）



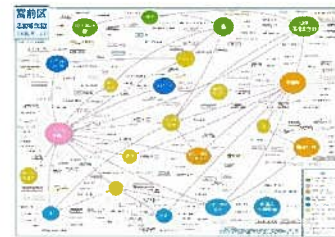
宮前区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」（SDC）

【令和3年度事業費：1,730 千円】

（1）検討経過

- ①平成30年度取組：宮前区内での豊かな活動の広がり再確認
 - ・宮前区内の活動情報を整理し、つながりなどの関係を相関図にしました。
- ②令和元年度取組：活動現場の体験・資源の再発掘
 - ・実際に現場で活動の様子を見たり、聞いたりする「現地ツアー」を実施しました。
 - ・現地に行ったからこそ見えてくる活動のすばらしさ、課題などがありました。
 - ・現地ツアーで見つけた「気づき」や「アイデア」を共有しました。



▲活動相関図

③ラウンドテーブルの試行実施

これまでの取組を踏まえ、令和3年度には、区内の豊かな活動を活かし、主体的に活動する既存の活動や人をつなぎ、さらに豊かにしていく「しくみ」や「しかけ」が宮前区らしいしくみという仮説を立て、多様な主体が協働・連携するプラットフォームとなる「場」として「**ラウンドテーブル**」を試行実施しました。

- ・宮前区の多様な主体による協働・連携（行政も一員）
- ・特定の場所（拠点等）ありきではなく求められる「機能」を区内の多様な主体が連携しながら実現につなげていく
- ・多様な資源（人・ノウハウ・場など）をみんなで持ち寄る

【ラウンドテーブル試行実施の結果】

テーマ	（1）公園×マルシェで「拡大まちかどシェア」 （2）シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区版道の駅?）をつくってみよう！ （3）民間が保有する地域の場と地域活動をマッチングしよう！
見えた成果	・運営の支援／アイデア・ノウハウの共有／公共施設の地域化の推進／地域資源の見える化／課題解決のアイデアの深化／民間企業が保有する場の地域での活用促進 等



④宮前区 SDC 像（案）の作成

ラウンドテーブルの試行実施やアンケート結果等を踏まえ、宮前区の SDC 像（案）として長期と短期の像を作成しました。

（2）取組の方向性

最初からフルスペックで実施することは難しいため、まずは「短期」の像を目指し、できるところからスタートします。

（3）現状・今後の展開

令和4年度は、SDCのしくみや運営を検討し、立ち上げるワーキンググループメンバーを募集しました。7月24日のミーティング1を皮切りに、個別ミーティングを重ね、宮前区SDCの立ち上げを目指していきます。



▲SDC 像(案)

2 地域デザイン会議

◆令和3年度テーマ：まちのひろば創出に向けた公共施設の地域化等に関する検討

SDC 検討過程とあわせて、ラウンドテーブル試行実施と連携して実施。4年度も同様のテーマで開催予定。

3 まちづくり推進組織

まちづくり協議会への行政からの予算措置及び運営支援について、令和5年度末までの経過期間を設けてそのあり方を見直していく方針を決定し、まちづくり協議会がこれまで行ってきた取組の棚卸しを行うとともに、今後のまちづくり活動に引き継いでいくべき機能等を整理することを目的として「宮前区まちづくり協議会に関する活動調査報告書」を令和3年度末に作成しました。今後は、まちづくり協議会と行政との最適な協働のあり方について検討するとともに、これまでにまちづくり協議会の活動を通じて蓄積された様々な事業ノウハウや人的資源等が適切に継承されていくよう調整を行っていきます。

4 区民活動支援コーナー等

利用者会議運営委員会により自主運営を行っています。長引くコロナ禍により登録団体数が減少し、それに伴い施設の稼働率も減っています。

◆稼働率：令和3年度 29% ※コロナ禍前の令和元年度は 38%

5 市民提案型事業等

（1）宮前区資金支援事業補助金（宮前区まちづくり協議会）

区内の市民活動の中間支援組織である宮前区まちづくり協議会が実施する、区内で公益的な活動を開始及び推進しようとする市民活動団体への資金支援事業に対して補助金を交付することにより、地域に密着した宮前区独自の団体活動の活性化、運営の自立・発展を目指し事業を実施しています。まちづくり協議会と行政の関係性見直しの調整を進める中で、資金支援の手法等について検討をする必要があります。

◆平成13年度から令和3年度までの21年間で延べ395団体、約3,200万円の支援を実施

R3年度の実績：17団体 130万円の支援

（2）宮前区市民提案型総合情報発信事業

区における地域の文化、自然等の資源の価値を改めて見出すとともに、地域資源を活用して当該地域の魅力を高めていくため、主体的に区の魅力を情報発信する団体と区が協働して事業に取り組む「宮前区市民提案型総合情報発信事業」を令和4年度から開始しました。（3件の事業を採用し実施中）

6 その他

（1）宮前区近所情報サイト「みやまえご近助さん」

町内会・自治会をはじめとした地域活動や地区カルテの情報を町名単位で整理し、小地域での活動情報等を見える化するとともに、地域の情報を集めて発信する子育て世代の「ご近助コンシェルジュ」の活動を通して、地域活動の新たな担い手と期待される子育て世代の活動参画や多様な主体の連携促進を目指しています。

◆カフェやサロンなどの情報発信約200件、町内会や自治会等の地域情報の発信約100件

（2）宮前区役所職員研修「まちに出て『ご近助でささえあう地域づくり』を体感しよう」

区内で幅広く行われている地域の活動に参加して、「ご近助でささえあう地域づくり」を体感するとともに、地域のニーズや課題に触れ、地域のつながりの大切さを学ぶことを通じて、「地域包括ケアシステム」、さらに、それを下支えする「コミュニティ施策」への理解と共感を広げることを目的とした研修を開催しています。

◆令和3年度は、公園体操、子育てサロン、コミュニティカフェ、高齢者向け会食会など、計18箇所を訪問

長期

別紙

案

宮前区SDCサポーター

市民団体・企業
・財団・区民（個人）
区役所（市役所）など

SDCを
応援しま
す！

宮前区ソーシャルデザインセンター（SDC）

活動を支援する機能

人や
ノウハウ
をつなぐ

場所の
シェアや
活用

情報
発信

活動の
運営を支える

担い手
を育てる

宮前
らしさを
応援

SDCの取組

相談窓口・ 場所

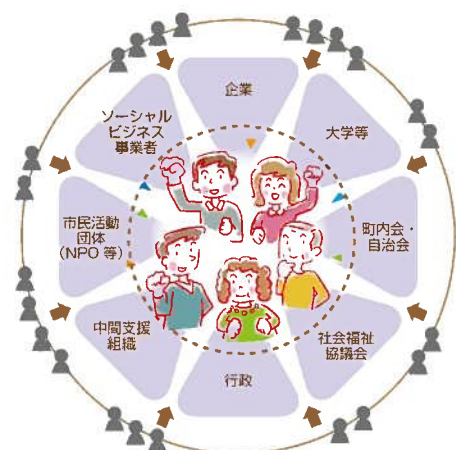
例
空き店舗、
空き家の活用
SNS、HP等

課題の 収集・整理

地域の声／
悩みを
ストックする

地域の課題と
して整理して
いく

ラウンドテーブル



イベント

例：現地ツアー等による
新たな参加者の巻き込み
等

公共的空間の管理運営

例：道路・公園等の
運営管理

活動支援

例：クラウドファンディ
ング、情報発信等

新しい
まちの
ひろば

参加

参加

資金源

寄附金、スポン
サー金など

参加費、相談費、
広告費、企画・
コーディネート
費など

委託費、補助金
など

運営体制（ネットワーク）

企画・コーディネート

運営団体
（区役所）

運営団体

運営団体

運営団体
（初動期）

自主財源に
よる運営

初動期の立ち上げ支援

運営団体同士の
ゆるやかなつながり

SDC支援：運営組織の状況に応じた関わり（区役所）

参加
資源や情報
の提供
相談

プロジェクト
募集

課題・実現
したいこと
の相談

課題・実現
したいこと
の相談、
参加

一般区民

短期



SDCを
応援しま
す！

市民団体・企業
・財団・区民（個人）
区役所（市役所）など

宮前区SDCサポーター

案

ラウンド
テーブル
から生ま
れた

宮前区ソーシャルデザインセンター（SDC）

活動を支援する機能

人や
ノウハウ
をつなぐ

場所の
シェアや
活用

情報
発信

活動の
運営を
支える

担い手
を育てる

宮前
らしさを
応援

SDCの取組

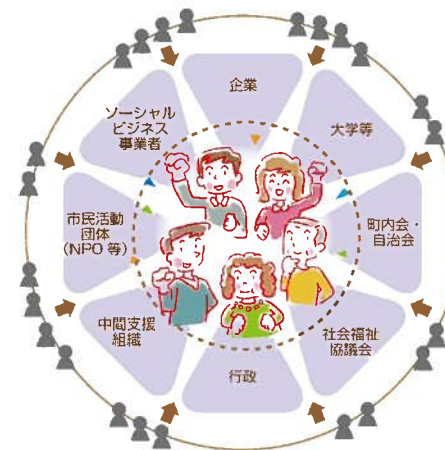
オンライン等 の相談窓口

例
SNS、HP等

課題の 収集・整理

地域の声／悩みを
ストックする
地域の課題として
整理していく

ラウンドテーブル



運営体制

企画・コーディネート

立ち上げワーキンググループ

取組にご賛同いただける有志（希望者募集）・区役所

自立・機能強化の支援

SDC支援：運営組織の状況に応じた関わり（区役所）

活動・PJ

長期PJや
単発イベント等

活動・PJ

新しい
まちの
ひろば

参加

参加

参加
資源や情報
の提供
相談

課題・実現
したいこと
の相談

課題・実現
したいこと
の相談
参加

一般区民

多摩区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」(SDC) 【令和3年度事業費：6,988千円】

(1) 検討経過

- 平成31年3月 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定
- 平成31年4月 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会」設置
※公募委員33名
- 令和元年11月 「多摩区におけるSDC開設案」(以下「開設案」)策定
- 令和元年12月 検討会委員を中心に運営組織「多摩区SDC」設立。市と運営組織において協定締結
- 令和2年3月 多摩区総合庁舎1階(喫茶室跡)に「多摩区SDC」開設

(2) 取組の方向性

開設案で掲げる理念の実現を目指し、協定に基づき運営組織が主体的に多摩区SDCを運営し、多摩区役所は運営組織の主体的な取組に対する支援を実施

(3) 現状・今後の展開

ア 開設以降のSDCに係る取組状況(下図のとおり)

- 開設時間：平日10～16時(常駐スタッフ1名を配置) 開設場所：多摩区総合庁舎1階
- 運営組織：一般社団法人多摩区SDC ※令和2年に法人化。会員55名(うち約75%が20代以下)

多摩区SDC

備えることが望まれる基本的機能(開設案)	取組の分類(開設案)	多摩区SDCによる具体的な取組
①多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る ②多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする ③地域課題の解決を目指した社会実験の展開 ④地域活動への専門的支援 ⑤地域で人を育てる仕組みをつくる ⑥「まちのひろば」への支援 ⑦みんなに届く情報発信 ⑧多摩区内の人と人をつなぐ ⑨多摩区の地域特性を活かした取組	相談・活動支援	地域活動に関する相談受付、多摩区地域コミュニティ活動支援事業、地域人材の掘り起こし、人材バンク構築に向けた取組等
	情報収集・発信	各種SNS、HP、広報紙・チラシの発行、タウン紙を通じた情報発信、新成人に向けた取組PR、地域団体の会議等での情報発信等
	ネットワーク構築・交流促進	事務所を活用したまちのひろば創出、交流促進に向けた取組(子ども食堂の実施及び開設支援、たまミュージックウィレッジの開催等)、地域の交流促進に向けたイベントの開催(登戸・たまがわマルシェ等)、地域イベントへの協力(登戸まちなか遊縁地等)
	調査・研究・実験・課題解決の実践	市の実証実験への協力(ウォーターサーバー導入、多摩川河川敷の利活用に向けた取組)
	人材育成	教養講座の実施、運営組織スタッフの人材育成に向けた取組の実施
	その他の取組	小学校への出張授業、収入確保に向けた取組、活動報告会の開催等

置中
き間
つ支
つ援
右の
活動
取組
にを
重実
施を

多摩区役所

- 1 事業実施に係る運営費用の支援
- 2 多摩SDC運営組織の主体的な取組に対する効果的な
伴走支援の実施(広報への協力、情報共有等)
- 3 区におけるコミュニティ施策に係る取組の再構築
- 4 SDCに係る取組に対する評価・検証(R4年度に実施)
- 5 その他(区役所の施設使用や備品等の貸出し等の支援)

イ これまでの取組に対する評価・検証の実施

開設案及び協定に基づき、これまでの取組を振り返りながら、令和5年度以降のより良い取組のあり方を検討する評価・検証を多摩区役所として実施

※「多摩区におけるSDCに係る取組の評価・検証に係る中間とりまとめ(令和4年8月)」参照

2 地域デザイン会議

- ◆令和3年度テーマ：市民自治を一層進める地域人材によるまちづくりの推進に向けた取組
- ◆令和4年度テーマ：「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく今後の区域レベルの取組について
- 令和3年度はSDC含め地域で活動する団体等の連携促進の契機として開催(新型コロナウイルス拡大防止のため、4年度に延期して開催)、4年度は多摩区におけるSDCの取組への意見聴取を目的として開催。

3 まちづくり推進組織

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の策定を受け、多摩区として令和2年3月にSDCを開設することとなったことから、これまで中間支援機能を担ってきた多摩区まちづくり協議会については、機能が重複するなどの理由により、第6期が終了する令和元年度末をもって発展的に解消した。

4 区民活動支援コーナー等

多摩区民活動・交流センターについては、多摩交流センター及び生田交流センターの2か所を拠点とし、その運営は、運営に参画する意思のある利用登録団体で構成される運営委員会と協働で行い、団体間の交流と相互支援を促進している。令和3年度末の登録団体数は210団体で、令和3年度における各拠点の会議室の使用率は、多摩交流センターが29%、生田交流センターが23%となっている。コロナ禍前と比較すると登録団体数は約30団体増加しているものの、会議室の利用率は10ポイント以上減少していることから、登録団体が安心してセンターを利用できるような環境づくり及び周知が必要である。

5 市民提案型事業等

多摩区における市民提案型事業「磨けば光る多摩事業」について、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、これまでの役割や成果と課題等を踏まえ、事業の再構築に向けた検討を行った結果、区と団体の協働事業ではなく、多様な主体の協働・連携により、コミュニティづくりや地域課題の解決を図ることができる事業としての再構築を目指すこととし、地域の自主的な取組をより効果的かつ柔軟に後押しできるよう、多摩区SDCが実施している助成事業へ統合する形で再構築していくこととした。

再構築に向けて、令和4年度から磨けば光る多摩事業を休止し、多摩区SDCが実施する助成事業を拡充していくための支援に取り組み、多摩区SDCと情報共有をしながら、概ね3年程度の実施状況を検証し、事業のあり方を検討していく。

【参考：令和3年度「磨けば光る多摩事業」の実績】

- 提案事業数：4事業 選定事業数：2事業(委託金額合計：1,148千円) ※1事業の上限額：650千円
- ・「第2回多摩インクルージョンセミナー&ワークショップ～障がい児とそのご家族のためのスクールフェス」
- ・「仮想集落トカイナカヴィレッジ発信！多摩区を知る・学ぶ・食べる ワクワク体験！事業」

6 その他

- ◆「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく区としての取組を効果的に推進するため、区役所内11部署による「コミュニティ施策推進検討部会」を区企画調整会議に設置し、各部署提出の議題について意見交換・情報交換を実施
- ◆区内障害者団体等の作品の展示・販売や、高齢者を対象としたスマホ、Zoom講座の開催など、区における地域包括ケアシステム構築に向けた取組と多摩区SDCの連携した取組を推進

1 「これからの」コミュニティ施策の基本的考え方に基づく多摩区における取組経過

H31.3月 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定

区域レベルの新たなしくみとして、地域での様々な活動や価値を生み出し、社会変革(ソーシャルイノベーション)を生み出す基盤(プラットフォーム)となる「ソーシャルデザインセンター」(以下「SDC」)を創出する。

⇒「区の独自性を踏まえて検討」、「市民主体の運営を理想」、「自主財源による運営を見据えたもの」とすることが望ましい」

H31.4月 これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区
区域レベル取組検討会(以下「検討会」)の設置

R1.11月 多摩区におけるSDC開設案(以下「開設案」)を策定

R1.12月 検討会委員を中心に運営組織を設立。市と協定を締結

R2. 3月 多摩区総合庁舎1階(喫茶室跡)に「多摩区
ソーシャルデザインセンター(以下「多摩SDC」)開設

R2. 3月以降 開設案の実現を目指し、運営組織による自主的な取組を推進
多摩区役所は運営組織の主体的な取組に対して支援を実施



多摩SDC事務所

2 多摩区におけるSDCに係る取組に関する評価・検証の実施

(1) 評価・検証の実施

開設案及び協定に基づき、これまでの多摩区におけるSDCの取組を振り返りながら、令和5年度以降のより良い取組のあり方を検討するための評価・検証を多摩区役所として実施する。

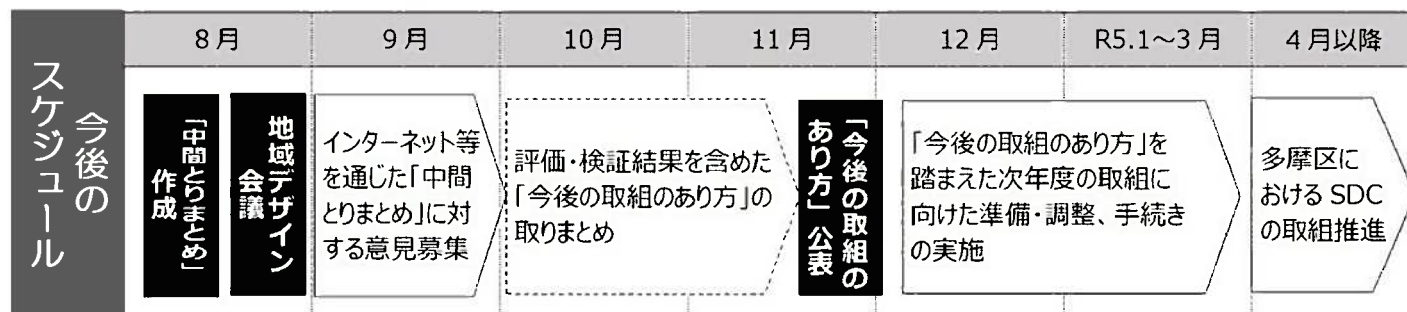
(2) 評価・検証の概ねの進め方

ア これまでの多摩区におけるSDCに係る一連の取組について、地域デザイン会議等での区民意見を踏まえ、主に開設案で掲げる理念の実現にどれだけ寄与できたのかを評価

イ これまでの取組の現状・課題を洗い出し、令和5年度以降におけるより良い取組のあり方を模索

ウ 評価・検証結果は、「(仮称)多摩区におけるSDCの今後の取組のあり方」(以下「今後の取組のあり方」)として、令和4年11月末を目途に取りまとめる。

エ 市民文化局が令和4年度に実施する基本的考え方に基づく取組の検証とも連携し作業を推進



3 これまでの多摩区における取組

(1) 開設に向けた検討・準備段階の主な取組

ア 検討会の開催 平成31年4月から令和元年11月にかけて計12回開催(委員33名)

イ 開設案の策定 多摩区における望ましいSDCの骨格を示すものとして、令和元年11月に策定

(ア) 多摩区におけるSDCの開設理念

みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる

～多様な主体と多世代が支え合い、多様な資源を活用し、区民主体の持続可能なまちづくり～

(イ) SDCの基本的機能と具体的な取組

備えることが望まれる基本的機能
①多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る
②多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする
③地域課題の解決を目指した社会実験の展開
④地域活動への専門的支援
⑤地域で人を育てる仕組みをつくる
⑥「まちのひろば」への支援
⑦みんなに届く情報発信
⑧多摩区内の人と人とを結ぶ
⑨多摩区の地域特性を活かした取組

中間支援の活動に重きを置きつつ右の取組を実施

相談・活動支援

情報収集・発信

人材育成

ネットワーク構築・交流促進

調査・研究・実験・課題解決の実践

(ウ) 開設場所 多摩区総合庁舎1階の喫茶室跡地に開設することが望ましい。

(エ) SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について

検討会委員を中心に新たに立ち上げる運営組織によるSDC開設を目指す。

運営組織に対する支援は、予め期間を設定(令和4年度まで)して行う。

支援期間内の取組は、評価・検証を行い、支援期間以降のSDCのあり方を改めて模索していく。

ウ 運営組織の立上げ(組織名称:多摩区ソーシャルデザインセンター)

検討会委員のうち有志の13名により、令和元年12月に任意団体による運営組織の立上げ

エ 協定の締結(協定期間:令和5年3月31日まで)

開設案を踏まえ、SDCの運営が適切に行われることを目的として、市と運営組織において締結

オ 多摩SDC開設までの準備

運営組織と多摩区役所による打合せを概ね週1回開催し、開設に向けた検討・準備を推進

(2) 多摩SDC開設以降の取組

ア 運営組織による取組

(ア) 多摩SDCの開設(令和2年3月16日)

開設場所:多摩区総合庁舎1階 開所時間:平日10~16時

(イ) 多摩SDCの管理運営

a 事務所の管理運営 b 事務所への常駐スタッフの配置 c 役員会、全体会議、総会の開催

d 運営組織体制の強化

・運営組織の法人化「一般社団法人多摩区ソーシャルデザインセンター」(令和2年8月31日)

・運営組織メンバーの拡充(令和4年4月時点で55名。大学生など多くの若い世代が参加)

e 運営に係る予算

協定に基づき市から補助金を交付。また、運営組織が収入確保に向けた様々な取組を実施

(ウ) 相談・活動支援

a 地域活動に関する相談受付 事務所や電子メールで地域活動に関する相談を受け付け。

【寄せられた相談等の件数内訳（合計延べ207件）】

イベント等の開催支援：19件 活動場所8件 人的支援：16件 活動資金：12件 広報協力：11件
活動のノウハウ：11件 SDCの活動に関する問合せ：75件 その他の相談：55件

【相談への対応事例】

・若年性認知症カフェの開催支援

主催団体からの相談を受け、多摩SDCの事務所をカフェの会場として提供。多摩SDCのスタッフにより準備、運営などへの支援も実施

・区内障害者団体等の作品の展示・販売支援

「パサー・ジュ・たま」出展団体からの相談を受け、多摩SDC事務所で作品の常設展示・販売を実施。多摩SDCスタッフが販売業務を担う形で支援



区内障害者団体等の作品の
常設展示・販売支援

b 多摩区地域コミュニティ活動支援事業（多摩区まちのひろば活動支援資金）

地域活動を行う団体・法人が、地域の新たなコミュニティづくりや課題解決につながる「事業」を行う場合に、その資金の一部を多摩SDCが支援。令和4年度からは、多摩区役所が実施してきた市民提案型事業（磨けば光る多摩事業）について、本事業に統合する形で事業の再構築を推進

【令和2年度交付実績（6団体）】

子ども食堂を広げたい（10万円）、本を好きな子を育てよう（10万円）、地域の子どもたち向けに英語教室を開く（5万円）など

【令和3年度交付実績（3団体）】

地域活性化とコミュニティの再構築（10万円）、区民参加型アートプロジェクト（10万円）など

c 地域人材の掘り起こし、人材バンク構築に向けた取組

地域人材に係る情報登録の受付や事務所でのイベントを通じた人材発掘を実施

【地域人材の情報登録】 個人登録：94件、団体登録：17件

【事務所でのイベントを通じた人材発掘】 たまミュージックヴィレッジの開催を通じた人材登録：50件

d 市や多摩区役所が実施する事業等への連携・協力

- ・生田出張所オープニングイベント「地域づくり講演会『コロナ禍でのつながりづくり』」への協力
- ・高齢者を対象としたスマホ・Zoom利用講座の開催支援
- ・「まちのひろばフェス2021」の開催協力
- ・多摩区制50周年記念公募企画事業の企画立案等に係る助言等の支援 など



新成人に向けた取組PR
（登戸駅パデストリアンデッキ）

(エ) 情報収集・発信

各種SNS(Facebook、Twitter、Instagram)、ホームページ、広報紙・チラシの発行、タウン紙を通じた情報発信、新成人に向けた多摩SDCの取組PR、地域団体の会議等における情報発信など

(オ) ネットワーク構築・交流促進

a 事務所を活用したまちのひろば創出、交流促進に向けた取組

- ・子ども食堂の実施及び開設支援：子育て家庭への支援を目的に月1回開催。また、多摩SDC立上げ支援により多摩区内で5か所の子ども食堂が新たに開設
- ・たまミュージックヴィレッジの開催：ミュージシャンの発表、地域交流の場として月1回開催
- ・学生カフェの開催：概ね週1回、多摩SDCが主催・協力するイベント等の企画や打合せなど
- ・まっち楽習塾の開催：子どもの居場所づくり等のため、主に小学生を対象に期間限定で開催
- ・他団体による交流イベント等の開催支援（若年性認知症カフェ、たまアート縁日） など

b 地域の交流促進に向けたイベントの開催及び地域イベントへの参加・協力

登戸・たまがわマルシェや登戸・たまがわうんどうかいの開催、「生田緑地⇄多摩川ピクニックラリー」や「登戸まちなか遊縁地」、「川崎北部」食の祭典in生田緑地への出店・運営協力など

(カ) 調査・研究・実験・課題解決の実践

市の実証実験への協力として、ウォーターサーバー導入や多摩川河川敷の利活用に向けた取組への協力

(キ) 人材育成

a 教養講座等の実施 区民を対象とした各種講座の開催

「歴史的建造物・古民家再生を生かしたまちづくりの先進事例を学ぶ」、「0～6歳ママ・パパ集まれ!! こども想いのくつえらび勉強会」、家族みんなで子育てしよう! 「パパの戦力化計画」など

b 運営組織スタッフの人材育成に向けた取組

- ・多摩SDCの新規スタッフ等を対象としたコミュニティ施策や地域包括ケアシステムの勉強会
- ・子ども食堂でのボランティア希望者を対象とした説明会
- ・学生カフェにおける様々なテーマによる勉強会 など



学生カフェの様子

(ク) その他の取組

a 小学校へ出張授業の取組 東生田小学校（令和3年9月17日、令和4年7月13日）

b 収入確保に向けた取組

- ・地域の店舗と連携した事務所での物販 ・日本民家園の古民家を活用した古民家カフェの営業
- ・地域のイベント等への出店 など

c 活動報告会の開催 区民への報告会（令和3年3月14日、令和4年3月13日）

イ 多摩区役所における支援及び多摩SDCと連携した取組

(ア) 多摩SDCの取組に対する支援等の検討・実施

a 運営費補助金の交付 b 多摩SDCの主体的な取組に対する効果的な伴走支援の実施

市政だより多摩区版等での広報の協力、地区カルテ等の情報共有、多摩SDCが実施する勉強会への協力、施設使用、物品の貸し出し等による支援

(イ) コミュニティ施策推進に係る検討体制の構築：多摩区役所内11部署による検討部会の設置

(ウ) 区におけるコミュニティ施策の再構築に向けた取組：区における市民提案型事業の再構築の推進

4 これまでの取組に対する評価の視点と多摩区役所としての現状・課題認識

(1) 評価・検証の実施

これまでの多摩区におけるSDCに係る取組について、主に開設案で掲げる理念の実現にどれだけ寄与できたのかを検証するに当たり、次のア～ケの視点により評価していく。

(2) 評価の視点に基づく現段階での多摩区役所としての現状・課題認識

ア 開設案の機能に基づく取組をどれだけ実施できたか

○「相談・活動支援」、「ネットワーク構築・交流促進」を中心に、開設案で掲げる分類に沿って具体的な取組を順次スモールスタートで実施し徐々に拡充。これらの取組により概ね9つの機能を実装

○一方で、多摩区におけるSDCに求める主要な機能である中間支援の根幹をなす、機能②、機能⑥を拡充していくために、地域の団体や企業、大学等との関係構築に向けた取組を強化し、ニーズに応じた支援の取組を一層拡充していくことや、運営組織の体制の更なる強化が必要

【開設案で掲げる機能別に見た多摩SDCの取組状況】

機能①：多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

〈主な取組〉 学生カフェの開催、小学校へ出張授業、子ども食堂の見学ツアーなど

〈現状・今後に向けて〉

○学生カフェの開催など若い世代向けの取組を通して、多くの大学生等が多摩SDC運営組織のメンバーやボランティアとして、地域での活動に参加(メンバーは開設当初の13名から55名に増員 ※令和4年4月時点)

○様々な立場、多世代の方に、地域活動に興味を持ってもらえる環境づくり、活動する人の夢の実現を様々な段階で支援する取組については、具体的な取組の実践や、相談・活動支援の充実・強化が望まれる。

機能②：多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

〈主な取組〉 多摩区地域コミュニティ活動支援事業、フードドライブへの協力、活動したい人と活動の場のマッチングなど

〈現状・今後に向けて〉

○相談・活動支援の取組を通じて、ヒトやモノ、活動場所のマッチングの取組が行われている。

○今後、マッチングの機能を拡充していくために、情報収集の強化や活動する地域の拡大、地域の団体・企業等との一層の関係構築を図っていくことが望まれる。

機能③：地域課題の解決を目指した社会実験の展開

〈主な取組〉 ウォーターサーバー導入への協力、市や小田急電鉄による多摩川河川敷利活用の取組への協力など

〈現状・今後に向けて〉

○市等が実施する社会実験への協力が行われている。

○行政をはじめ、企業・大学・地域団体など様々な主体と連携した取組を推進していくことが望まれる。

機能④：地域活動への専門的支援

〈主な取組〉 地域活動に関する相談受付、創業支援の相談に対する専門機関の紹介など

〈現状・今後に向けて〉

○地域活動に関する相談を受け付け、相談内容に応じて専門機関への紹介などが行われている。

○今後、相談内容やニーズに応じて迅速かつ的確に専門家へつなげられるような、運営組織としての一層のコーディネート機能の強化と、知識・スキルを持つ多様な主体との関係構築を推進していくことが望まれる。

機能⑤：地域で人を育てる仕組みをつくる

〈主な取組〉 大学生など若い世代の参画による多摩SDCの運営、学生カフェの開催、小学校へ出張授業の取組など

〈現状・今後に向けて〉

○多くの大学生等が地域での活動を地域の方と実践していくことが人材育成の機会となっています。

○一方で、様々な立場、多世代の方が地域での活動に興味を持ってもらうとともに、地域活動への参加しやすくなるような環境づくりを一層推進していくことで、地域の中で人を育てる仕組みづくりを構築していくことが望まれる。

機能⑥：まちのひろばへの支援

〈主な取組〉 子ども食堂の創出支援、若年性認知症カフェの開催支援、区内障害者団体等の作品の展示・販売支援など

〈現状・今後に向けて〉

○相談に応じて、地域の団体が実施する取組やイベント運営などに対する様々な支援が行われている。

○今後、支援の取組を一層推進していくため、地域の団体やまちのひろばについて、地域に出向いての情報収集や関係構築などの取組を強化するとともに、支援の取組を区全域に行き渡るよう拡充していくことが望まれる。

機能⑦：みんなに届く情報発信

〈主な取組〉 各種SNS等による情報発信、活動報告会の開催、新成人に向けた取組のPR、SDCつうしんの発行など

〈現状・今後に向けて〉

○各種SNS、地域団体の会合等での活動紹介、新成人に向けたPR活動など多様な手法で情報が発信されている。

○今後も、多様な手法でPRしていくとともに、本当に必要としている人に必要な情報を届けられるよう、地域の団体等との関係構築や情報収集を進め、ニーズに的確に対応した情報発信を行っていくことが望まれる。

機能⑧：多摩区内の人と人をつなぐ

〈主な取組〉 地域の交流促進に向けたイベント(登戸・たまがわマルシェ等)、たまミュージックヴィレッジ、学生カフェの開催など

〈現状・今後に向けて〉

○取組を通じて、地域の人と人の交流や、多摩SDCと地域の団体等との顔の見える関係づくりが進められている。

○今後、地域の様々な団体や企業、大学など様々な立場で活動する団体や、多世代の人が横のつながりを広げることができるような取組を一層推進していくことが望まれる。

機能⑨：多摩区の地域特性を活かした取組

〈主な取組〉 地域資源を活用したイベントの開催(登戸・たまがわマルシェ等)・日本民家園の古民家を活用したカフェの運営など

〈現状・今後に向けて〉

○多摩区の貴重な資源を活用した取組が実施されている。

○今後も地域資源を効果的に活用した取組や、地域の実情・特性に応じた取組を推進していくことが望まれる。

イ どの位の人が取組に関わり、又は参加したのか

○多摩SDCの運営組織のメンバーは、令和4年4月時点で55名となり立上げ時から大幅に増員されている。特に、20代以下のメンバーが全体の約75%を占めるなど、多くの若い世代が運営に参加

○一方で、子育て世代のスタッフとしての参加は比較的少ない状況であり、多世代によるまちづくりを推進していくためには、一層幅広い世代の参加が課題

○今後も、より多くの区民のまちづくりへの参加の入り口となるような多様な取組を展開していくことが必要

- ・子ども食堂：令和2年度～3年度の来場者数4,573人
- ・たまミュージックヴィレッジ：50団体の登録
- ・登戸・たまがわマルシェ：令和3年度約2,500人、令和4年度約50,000人来場
- ・登戸・たまがわうんどうかい：親子202組参加



子ども食堂の様子

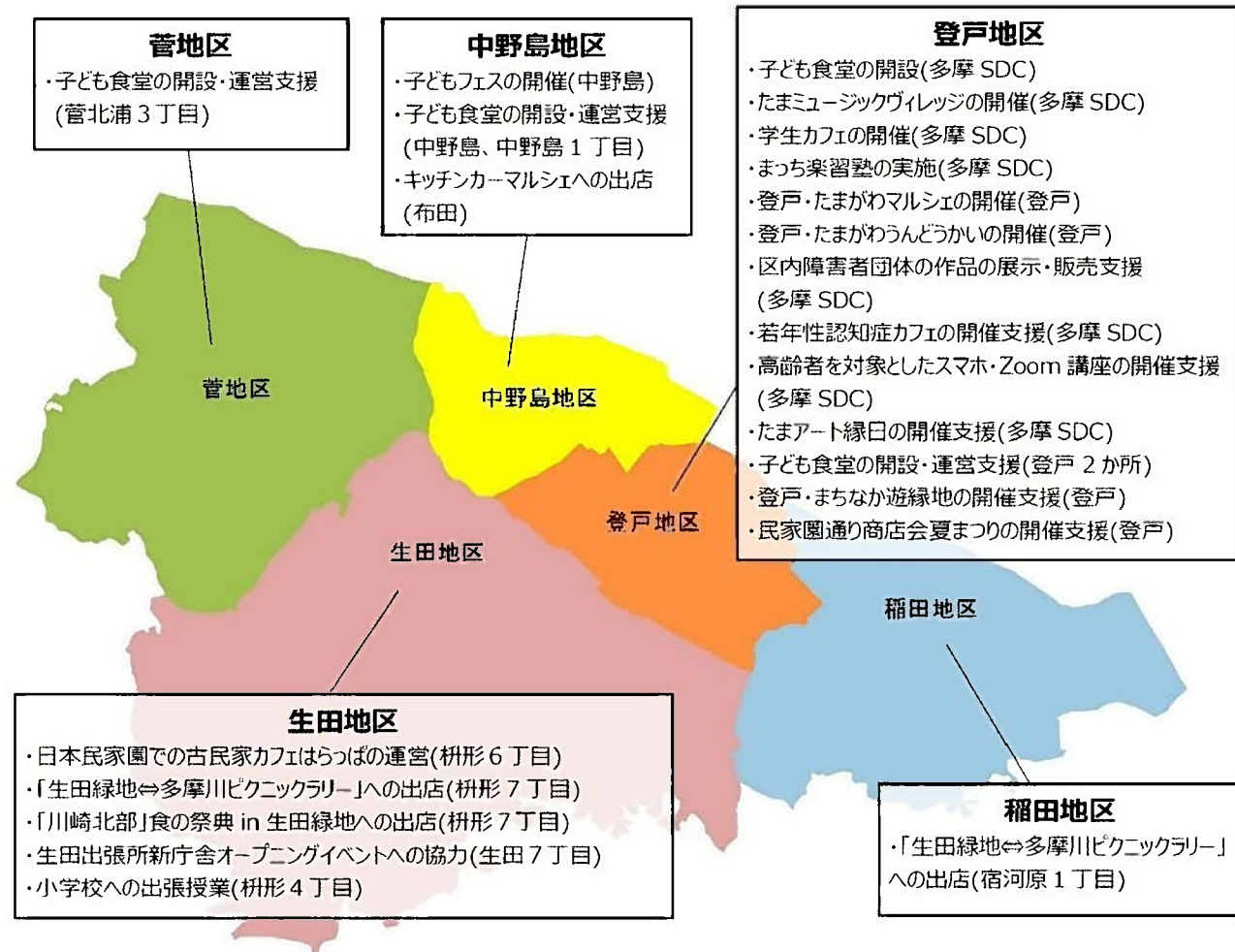


登戸・たまがわマルシェの様子

ウ まちのひろばを地域にどのくらい創出できたのか

- これまでの取組を実施された地域ごとに見ると、各地区で多様な取組が展開されている。
- 一方で、**多摩SDC事務所が立地する登戸地区に取組の多くが集中していることから、他の地区においても、地域団体等との関係づくり、新たなまちのひろばの創出など多様な取組を展開していくことが必要**

【多摩SDCによる「まちのひろば」の創出又は地域団体等への支援等の主な取組】



エ 地域からの理解と信頼、協力を得られているか

- 様々なイベント等の開催や地域のイベント支援等を行うことで、**徐々に地域からの理解と信頼を得つつあり、開設当初に比べ多方面からの相談が寄せられている。**
- これまで**活動が展開されてこなかった地区をはじめ、地域団体との一層の関係構築の推進**が必要

オ どのような地域課題の解決に寄与したのか

- 川崎市総合計画・多摩区区計画のまちづくりの方向性で掲げる、**うるおいやあたたかい地域のつながりを感じることができるまちづくりの推進に寄与。**同計画で掲げる様々な分野の取組推進に寄与
- 今後、**地域のニーズに応じた課題解決が実現**できるよう多様な主体との一層の連携・協働が望まれる。

カ 自主・自立の運営を行うことができているのか

- マンパワーの面**では、工夫により**新たなメンバーを獲得**しながら、**自主・自立の運営が行われている。**
- 財政面**については、市が交付した補助金が収入の多くを占め、運営経費に充てられている。収入確保に向けた様々な取組が行われているが、現段階では**運営経費を賄うだけの収入を生み出せていない。**将来的な自立を目指し、**安定的な収入確保につながる新たな方策を見出していくことが必要**

キ 開設場所は適当か

- 公共施設内に事務所を構えていることで、**大学生スタッフ等も安心して活動**できるほか、多摩SDCを**知らない人からの信用も得られやすい**など、区民主体の活動を進めるに当たりメリットがある。
- 事務所(約46.5㎡)で打合せやイベントの準備等を行う際に**手狭となる場合**には、協定に基づき**多摩区総合庁舎内の会議室を貸し出す**など、**多摩区役所と連携した対応**が図られている。
- 使用料の負担が生じるものの、**現段階では現在の場所での運営を継続**し、今後の運営等の状況に応じて、より利便性の高い場所への移転等を含め、望ましい開設場所のあり方を模索していくことが必要

ク 区の支援等の取組は適切か

- 運営費補助金を交付(**毎年逡減**)するほか、**部署間での情報共有・連携**により、**柔軟な支援**を実施
- 多摩区役所が実施する事業に対して多摩SDCが協力したり、多摩区役所が担ってきた事業を多摩SDCの事業に統合する形で再構築するなど、**互いの強みを活かした連携・協力関係を育んでいる。**
- 互いの取組の効果的な推進のため、今後も**密接な連携・協力体制を維持していくことが望ましく**、多摩区役所としては、**今後も多摩区におけるSDCの実情に応じた支援を行っていくことが必要**

ケ 開設案の理念の実現にどれだけ寄与できたのか

- 様々な活動を通じて、若いメンバーと地域団体とのつながりが生まれ、**つながりを活かしながら、人と人をつなぐ支援を実現するなど、中間支援機能の強化**が図られている。
- 支援の実績を通じて**地域からの相談も増えつつあり、つながりが更に広がるなど好循環**が生まれている。
- 地域活動の経験がなかった多くの人の参加を得て、地域との関係を構築**しながら、支援の取組を実施、拡充している状況から、**開設案で掲げる理念に即した取組が推進されている**と考えられる。

5 令和5年度以降の取組推進に向けた現段階での多摩区役所としての考え方

- コロナ禍で地域との関係構築が困難な状況の中、多摩SDCにより、開設案で掲げる**理念の実現に向けた多様な取組が主体的に企画・実践**され、**地域差はあるが区民の理解と関心も徐々に得られつつある。**
- 多くの若い世代の参加**を得るなど、**運営組織体制の強化**も進められている。
- 令和5年度以降の多摩区におけるSDCのあり方**については、**多摩SDCが培ってきたノウハウや若い世代のパワーを継承**し、他の世代の参加も得ながら**多世代の運営体制を目指す**とともに、地域との関係性や**ニーズに応じた中間支援の取組を更に拡充**させ、**区全域に成果が行き渡るような方策を、開設案策定以降の社会や地域の情勢**(新型コロナウイルスの流行、デジタル化の進展等)、**地域デザイン会議での区民意見などを踏まえながら検討**していくことが望ましい。
- 運営面においては、**マンパワーの面で自立した運営体制の一層の拡充を求めていく**とともに、**財政面での現状・課題を踏まえ、自立に向けた新たな方策や、区による支援のあり方を検討**していく。

6 今後の評価・検証作業について

- これまでの実績や課題、地域デザイン会議における区民意見、市民文化局が実施する基本的考え方の検証内容、開設案策定以降の社会・地域の情勢などを考慮しながら、今後の評価・検証作業を進める。
- 中間とりまとめは、区HP、多摩区総合庁舎・生田出張所での閲覧による意見募集も行う(8/29～9/26)。

麻生区 区域レベルのコミュニティ施策に関する取組について（有識者会議資料）

1 「ソーシャルデザインセンター」（SDC） 【令和3年度事業費：0千円】
※令和4年度2,731千円（負担金）

（1）検討経過

令和元年度に「あさお希望のシナリオプロジェクト」を立ち上げ、75名の区民が参加し、10年後の麻生区の理想の姿を想像した「みんながつながる みんなが輝く I♥ASAO」をキャッチフレーズに始動。

令和3年度から、理想を実現するためのSDC機能を具体化したプロジェクトを検討し、5つのプロジェクトが決定される。

5つのプロジェクトを実施するため、令和4年度4月に「あさお希望のシナリオ実行委員会」を設立し、プロジェクトの実施・検証を開始。メンバーは令和4年9月8日時点で、会員45名、見守りメンバー28人となっている。

（2）取組の方向性

様々な機会を通じ、団体との意見交換等を行いながら、町内会・自治会支援等により地域コミュニティを推進しつつ、多様な主体との連携・担い手や参加者の創出による、持続可能で暮らしやすい地域を実現するため、「麻生区版SDC」の創出に向けた取組を推進する。

（3）現状・今後の展開



あさお希望のシナリオ実行委員会



設立 2022年4月

目的 SDCモデル実施に向けたプロジェクトの試行・検証

メンバー 会員 45人
見守りメンバー 28人
(2022/9/8現在)



これまでの活動などの
詳細は区HPで



現在試行中の5つのプロジェクト

今までの検討の中で、理想の麻生区を実現するためにSDCに必要と思われる機能を次の8つにまとめました。SDCモデル実施の検討のため、8つの機能のうちコアとなる3つの機能の実践として、5つのプロジェクトを試行しています。

コーディネート・
ネット・
マッチング
機能

既存団体間
ネットワーク
構築機能

オンライン
での関係づ
くり機能

人材育成機
能

情報収集・
提供機能

相談・活動
支援機能

調査・研究
機能

新たな参加
を促す機能

コーディネート事例を ヒアリングする

地域活動の現状・ニーズについて把握するため、地域活動団体や中間支援組織などを対象にヒアリングを行います。

人・団体・企業等をつなぐことによって、区民にとって住みやすい地域となるようなSDCモデル実施の在り方の検討に役立てます。



コーディネート・
ネット・
マッチング
機能

WEB&SNS

あさお希望のシナリオ実行委員会の活動や区内の地域活動の情報などを、WEBやSNS（Facebook・LINE）を通じて広報します。今後のSDCモデル実施に向け、情報収集・発信の課題を探るとともに、区民のSDCに対する関心が高まり、理解が得られるよう効果的な情報発信を行います。



HP



Facebook



LINE

情報収
集・提供
機能

SDCーCarプロジェクト

専用車で区内のさまざまな場所に出かけていき、「ASAOおしゃべりひろば」を開催します。気軽な相談窓口として、立ち寄ってくれた区民の声に耳を傾けて、コーディネート・マッチング機能の実践を行います。

区民の声やコーディネート・マッチングの経験などを、次のSDCモデル実施に活かしていきます。



コーディネート・
ネット・
マッチング
機能

ハロープロジェクト (チラシ等)

あさお希望のシナリオ実行委員会の活動や区内の地域活動の情報などを幅広く周知するため、チラシ等の紙媒体でも広報を行います。

WEB&SNSと連携して効果的な情報発信を行い、あさお希望のシナリオ実行委員会の新たな支援者を増やしていきます。

情報収
集・提供
機能

まちのひろば祭り I ♥ あさお

地域活動団体が日ごろの活動内容やその成果を発表し、地域活動を行ったことのない区民に興味を持っていただけるきっかけとなるようなイベントを企画し、9月23日（祝）に開催しました。

地域での新たなつながりなどが生まれるよう、新たな参加を促しました。

新たな参
加を促す
機能

会長からの
メッセージ



俵 隆典氏

コロナ禍で何度も中断を挟みながらも、ここまで検討を進めることができました。来年度には、スモールスタートでSDCモデル実施を行う予定ですので、ぜひ楽しみにしてください！

